

防ばい剤

JJ1SXA/池

スーパーで、レモンの値札に「防ばい剤不使用」と書いてあった、何が不使用なのだと、頭をかしげた、漢字で書くと、「防黴剤」、「黴」が読めればわかることだ、「黴」の音読みは、「ばい」、訓読みは、「かび」だ、要は、「防ばい剤不使用」は、「防かび剤不使用」と同義語だ、このレモンは、「防かび剤」を使っていない、だから、安心して皮まで食べられますということだ。

ドラッグストアでは、「防かび剤」、「防かび用スプレー」が売られている、「防かび」という言葉は一般化している、何故「防ばい剤不使用」としたのか、あえて、専門語風にしたかったのでしょうか、専門語は、漢字と仮名の交ぜ書きが結構多いようだ、調理用語の「油ちょう」は、油で揚げることだが、漢字で書くと「油焔」だ、一般の辞書には無い、「IMEパッド手書き」でようやく漢字を拾い出した、カタカナ語も多いが、こちらは、外来語が大部分だ、尤も「寿司」も「酒」も、sushi、sakeで外国に通じる、外来語の多いのはよしとしなければいけないのでしょう。

だが、「不注意」という立派な日本語を「ケアレスミス」などと気取る必要があるのか、英語が日本語並みに達者な人が使う分には、文句は無いが、英会話がほとんどできないような人が、「ケアレスミス」などと使うと、何だこの野郎と言う気になる、私が間違っているのか、アジェンダ（予定）、カンファレンス（会議）、プライオリティ（優先順位）、コンセンサス（合意）、エビデンス（証拠）などは、カタカナ語では無く、ちゃんとした日本語を使えと言いたい。

最近テレビのクイズ番組で、漢字の問題が多く出題される、思うように書けないのは、当たり前だと思っているが、えっそんな字があるのという場面もある、芸能人も結構勉強しているようだ、見習わなければいけない。

色々の専門用語を調べたら、知らない言葉が沢山出てきた、「建築関係用語」では、「青地(あおち)」は、「公図の中で青く塗られた部分で、無番地の土地のこと」、「犬走り(いぬばしり)」は、「建物のまわりに40～60cm位の幅でコンクリートや砂利敷きした部分のことで、雨水によって基礎部分が濡れたり、建物に汚れが跳ね返るのを防ぐものとの」ことでした。

「織機関係用語」では、「弓仕掛(ゆみしかけ)」という言葉が出てきた、これは、「竹を弓のようにたわめ、その弾力を利用して、杼道(ひみち)を作る綜統(そうこう)装置を上昇させる手織機の一部」ということだが、「綜統装置」とは何だと思ったら、「織機の一部品で緯(よこ)糸を通す杼(ひ)道をつくるために経(たて)糸を運動させる用具」だとのことで、これで「杼道(ひみち)」も分かった。

料理関係の専門用語で有名な「塩梅(あんばい)」という言葉の意味を再確認しました、塩梅は、昔から料理の味加減をいう言葉で、古くは調味料の種類は多くは無く、塩と梅酢が調味料の基本であり、これが丁度良い具合に混ざった時には、非常に良い味加減になったからであり、単に料理用語だけでは無く、具合が良いという意味にも転用されているようだ。